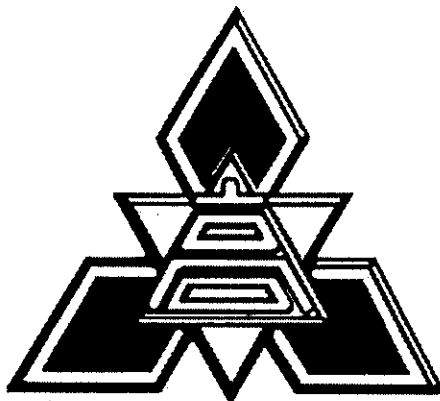


年間授業計画表

令和8年度 2年 商業科



SHINMINATO HIGH SCHOOL

富山県立新湊高等学校

2年商業科 年間授業計画表目次

| ページ | 教科名 | 科目名 | 単位数 | コース | 必修・選択の別 |
|-----|------|--------------|-----|--------------|---------|
| 1 | 国語 | 論理国語 | 2 | 全 | 必修 |
| 2 | 公民 | 公共 | 2 | 全 | 必修 |
| 3 | 数学 | 数学Ⅰ | 1 | 全 | 必修 |
| 4 | 数学 | 数学A | 1 | 全 | 必修 |
| 5 | 理科 | 生物基礎 | 2 | 全 | 必修 |
| 6 | 保健体育 | 体育 | 3 | 全 | 必修 |
| 7 | 保健体育 | 保健 | 1 | 全 | 必修 |
| 8 | 外国語 | 英語コミュニケーションⅡ | 2 | 全 | 必修 |
| 9 | 外国語 | 論理・表現Ⅰ | 1 | 全 | 必修 |
| 10 | 外国語 | 英語基礎演習 | 2 | グローバル・マネジメント | 選択 |
| 11 | 家庭 | 家庭総合 | 2 | 全 | 必修 |
| 12 | 商業 | マーケティング | 2 | 情報マネジメント | 選択 |
| 13 | 商業 | ビジネス・マネジメント | 2 | グローバルマネジメント | 選択 |
| 14 | 商業 | 財務会計Ⅰ | 4 | 全 | 必修 |
| 15 | 商業 | 原価計算 | 3 | 全 | 必修 |
| 16 | 商業 | ソフトウェア活用 | 4 | 全 | 必修 |
| 17 | 商業 | ビジネス実務スキル | 1 | 全 | 必修 |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|--|------------------|-----|--|-----|-----|----|------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 2 | 教科 | 国語 | 科目 | 論理国語 |
| 学習教材 | 教科書 「論理国語」 大修館書店 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけることができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「世界を広げる『批評』の言葉」 「言葉を定義する」 「ミロのヴィーナス」 「家族化するペット」 「統計資料から分析したことを書く」 | <ul style="list-style-type: none"> 主張を支える根拠や結論を導く論拠をとらえ、要旨を把握する。 情報を客観化、相対化して明確に考え、言葉に向き合う。 本文の比喩表現に注意しながら、認識や思考と言葉との関係を考える。 本文と統計資料の関係に注目して、さまざまな観点から自分の考えを深める。 統計資料を根拠として読み手に納得してもらうための文章の構成について学ぶ。 | | | | | | | |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「自己をモデル化する知能」 「立場を明確にして書く」 「敬語への自覚、他者への自覚」 「スキーマと記憶」 | <ul style="list-style-type: none"> 根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して読み取る。 主張と根拠をとらえた要約について学び、自分の意見を書く。 言葉と社会の関係について考えを深める。 記憶や学習におけるスキーマの働きを理解する。 | | | | | | | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「社会的実在としての言語・法・貨幣」 「分かち合う社会」 「世界は、いま」 | <ul style="list-style-type: none"> 具体的なエピソードに注目しながら社会に対する認識を深める。 学説を引きながら論述する文章を読み、主張をとらえる。 グローバル時代における文化の多様性の価値を考える。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の意見と具体例の関連性を理解し、学習の見通しをもって調べた身近な例を整理・分析して自己把握についての考えをまとめ、他者に伝えようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ノート点検 | | ㊦定期考査 ㊧授業プリント | | ㊦ルーブリックによる相互評価 ㊧各種課題提出状況 ㊨話し合い活動への参加状況 ㊩授業プリントの記述内容 | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | | |
|----------------------|---|---|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 2 | 教科 | 公民 | 科目 | 公共 | |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書 公共 (東京書籍) 資料集 最新図説公共 (浜島書店) 問題集 公共ワークノート (東京書籍) | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、諸資料から調べまとめることができる。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。</p> <p>(3) 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> 公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方 公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち | | | <ul style="list-style-type: none"> 青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期の課題について考察する。 先人の思想を手がかりに、課題解決の方法について考察する。 社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解できる。 民意を反映した政治を実現するための現状課題について、世論調査、投票率、選挙結果との関連から理解ができる。 | | | | | | |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> 法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活 | | | <ul style="list-style-type: none"> 道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解できる。 経済活動の意義、経済主体と経済環境、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解できる。 働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解できる。 | | | | | | |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> 国際社会のなかで生きる私たち 持続可能な社会づくりに参画するために | | | <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解できる。 現代の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。 | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標「B」(おおむね満足できる)の規準] | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解することができる。 諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現に向けて、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ㊦定期考査 ㊦小テスト ㊦ノート点検 | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦定期考査 ㊦課題レポート | | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦リマ-パ-ポートフォリオ ㊦グループワークによる相互評価 ㊦各種提出状況 ㊦討論への参加状況 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| | | | | | | | | | |
|-------|--|--|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅰ |
| 学習教材 | ・教科書「最新数学Ⅰ」数研出版 ・「パラレルノート 数学Ⅰ 基本-標準 新課程 教科書傍用」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身につける。 (2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。 (3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。 | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | 第5章 データの分析 | <ul style="list-style-type: none"> 度数分布表やヒストグラムにより、データの特徴を捉える。 平均値、最頻値、中央値の意味と計算方法を理解し、データの傾向を把握する。 データの散らばりの指標として、範囲、四分位数、箱ひげ図、分散、標準偏差の意味を理解する。 散布図や相関図により、2つのデータ間の関係を直感的に把握し、相関係数を計算することにより数値で判断する。 データを分割表に整理し、割合と度数を相互に関連付けて分析する。 仮説検定の考え方を理解し、主張の妥当性について実験等による判断や批判的な考察を行う。 | | | | | | | |
| 2学期 | 数学Ⅰの総合復習 | <ul style="list-style-type: none"> 問題演習を通して、既習事項の理解を深める。 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 | | | | | | | |
| 3学期 | | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | ○ | ○ | ○ | / | / | | |
| ② | 思考・判断・表現 | ・目的に応じて適切に式を変形することができる。 ・事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | ○ | ○ | ○ | / | / | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 ・問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | | ○ | | / | / | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | ㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 1 | 教科 | 数学 | 科目 | 数学A |
|-------|---|--|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新数学A」数研出版 「パラレルノート 数学A 基本一標準 新課程 教科書傍用」数研出版 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする能力を身につける。</p> <p>(2) 物事を多面的に捉え、目的に応じて適切に変形する力、社会の事象などに関連付けて、論理的に考察し表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用していこうとする態度を養う。</p> | | | | | | | | |
| 単元と内容 | | | | | | | | | |
| 1学期 | / | | | | | | | | |
| 2学期 | 第1章 場合の数と確率 場合の数 | <ul style="list-style-type: none"> 場合の数を求めるときの基本として和の法則、積の法則を適応し、その際、樹形図の有用性を理解する。 順列・組合せの意味を知り、その総数を求める。また、この考え方をいろいろな場合の数を求める際に、適切に用いることができる。 | | | | | | | |
| 3学期 | 確率 | <ul style="list-style-type: none"> 確率の定義を理解し、計算をすることができる。 加法定理などの確率、余事象の確率を理解し、応用できる。 独立試行・反復試行の概念を理解し、応用できる。 条件付き確率、期待値の意味を理解し、応用できる。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | 各単元における基本的な概念や原理・法則を理解している。 | / | / | / | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて適切に式を変形することができる。 事象を的確に捉えて、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 | / | / | / | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を振り返って考察を深め、改善しようとしている。 問題解決のために、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 | / | / | / | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト | ㊦ 定期考査 ㊧ 発表 ㊨ 討論への参加状況 | ㊦ 各種課題提出状況 ㊧ 定期考査 ㊨ 討論への参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 2 | 教科 | 理科 | 科目 | 生物基礎 | |
|---------|---|--|---|----|---|--|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「i版 生物基礎 改訂版」 啓林館 ・問題集「リードライトノート生物基礎」数研出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 生命現象を理解するために、分子レベルの視点をもって生命現象を学習することができる。</p> <p>(2) 観察や実験を通して、生命現象を科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるとともに、仮説を立てて検証をすることができる。</p> <p>(3) 生物に主体的に関わり、日常生活や社会と生態系の関連を図りながら学習できる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1学期 | 生物の特徴 遺伝子とその働き | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の分類を通して、多様な姿をもつ生物の共通性を見出す。 ・光合成と呼吸を通して、代謝とATPの関係を理解し、生命活動を支える酵素の働きについて理解する。 ・DNAの構造と特徴の理解を通して、塩基の相補性と複製を関連付けて理解する。 ・細胞分裂の観察を通して、DNAの分配について理解する。 ・遺伝情報の発現の仕組みを通して、生命活動の中心となるタンパク質とDNAの塩基配列の関係性について理解する。 ・タンパク質とDNAの塩基配列の関係性をもとに、DNAと遺伝子とゲノムの違いを理解する。 | | | | | | | | |
| 2学期 | 神経系と内分泌系による調節 免疫 | <ul style="list-style-type: none"> ・体内と体外の違いの理解を通して、体内を満たす体液と生命活動の関係を理解する。 ・循環系の学習を通して、血球の働きと心臓の構造を理解する。 ・自律神経系と内分泌系の学習を通して、恒常性について理解する。 ・ホルモンの学習を通して、細胞表面受容体とシグナル伝達について理解する。 ・肝臓と腎臓の学習を通して、体液調節のしくみについて理解する。 ・白血球の働きの学習を通して、防御機構のしくみを理解する。 ・獲得免疫の学習を通して、免疫グロブリンの働きとその特徴、受容体を介したシグナル伝達について理解する。 | | | | | | | | |
| 3学期 | 植生と遷移 生態系とその保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態系の構造と植生が与える影響について理解し、植生の遷移が生じる理由を理解する。 ・各バイオームの特徴を学習し、気温と降水量の変化により、バイオームが変わることを理解する。 ・生態系におけるエネルギーの移り変わりと物質の循環のしくみについて理解する。 ・人間活動に伴う生態系の変化について学習し、生態系の保全活動の手法について、具体的に考察する。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・単語を写真や図と関連させて理解している。 ・実験テキストに基づいて正しい実験操作ができている。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象について、学習した単語を用いて説明することができる。 ・実験結果について、学習した内容をもとに理由を説明できる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して自分が理解したことを説明することができる。 ・グループワーク時、積極的に議論に参加し、課題解決に主体的に取り組むことができる。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧副教材の取り組み ⑨単語テスト | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦定期考査 ⑧課題 ⑨ループリック | | | <ul style="list-style-type: none"> ⑦各種提出物 ⑧活動への参加状況 ⑨ループリック | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|--|--|-----|---------------|-----|------|----|----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業 | 単位 | 3 | 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書 現代高等保健体育(大修館書店) 資料集 図説現代高等保健(大修館書店) | | <ul style="list-style-type: none"> 体育簿(富山県体育保健学会) | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。また公正、協力、責任や健康・安全に留意する態度を身に付けることができる。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、それらの解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。</p> <p>(3) 班毎の目標や個人の課題が達成されるように練習を組み立て実行する能力を養うことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 体づくり運動 以下、同じ印から選択(☆○●△□■ ※*) ☆球技・ソフトボール ☆球技・ソフトテニス ○球技・フレッシュテニス ○球技・フットサル 体育理論 | 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方などを理解するとともに、自己の体力に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てる。 ソフトボールでは安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることを身に付け、ゲームを展開する。 ソフトテニスでは様々なサービスを打つ技能や変化のあるボールを返球する技能を身に付け、ゲームを展開する。 フレッシュテニスでは、基本技能を習得して、相手に応じた作戦を立てて攻防を展開することができる。 フットサルでは、基本技能を習得して、空間を埋めるなどの動きによって攻防を展開しゲームを行う。 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解し課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断すると共に、他者に伝える能力や主体的な態度を身に付ける。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 体づくり運動 ●陸上競技・ハードル走 ●陸上競技・リレー 陸上競技・中長距離走 △器械運動・マット運動 △ダンス・創作ダンス □球技・サッカー □ダンス・創作ダンス ■ティーボール ■バレーボール | 1学期と同じ 陸上競技では種目特有の技能を身に付ける。ハードル走ではスピードを維持してハードルを低くリズムカルに越す能力、リレーでは中間走の高いスピードを維持して速く走る能力を身に付ける。 中長距離走ではペースの変化に対応して走る能力を身に付ける。 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うとともに条件を変えた技や発展技に挑戦し、それらを構成し演技する。 創作ダンスでは表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で対局の動きや空間の使い方を変化を付けて表現し、イメージを強調した作品にまとめて踊ることができる。 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をして、ゲームを展開する。 上記、創作ダンスと同じ。 (ティーボール・バレーボール共通) 個人・集団の技能を習得し、それらを駆使しながらゲームを展開する。 | | | | | | | |
| 3 学期 | ※球技・バドミントン ※球技・卓球 *球技・バスケットボール *球技・ソフトバレーボール 体育理論 | (バドミントンと卓球共通) 個人の各種技術を高め、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わいながらゲームを行う。 (バスケットボール・ソフトバレーボール共通) 個人・集団の技能を習得し、それらを駆使しながらゲームを展開する。 体育理論は1学期と同じ。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標・「B」(おおむね満足できる)の基準] | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などについて理解している。 基本的な技能を身に付けている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに考えたことを他者に伝えている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 各種運動に積極的に取り組もうとしている。 演技などの話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | |
| | ⑦学習カード ①観察 ⑦記録・実技テスト | | ⑦学習カード ①観察 | | ⑦学習カード ①観察 | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|--|-------------------------------|-----|-----|--|-----|----|--------------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 2 | 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーションⅡ |
| 学習教材 | 教科書「LANDMARK Fit English Communication Ⅱ」啓林館 「予習・完成ノート」「WORKBOOK」啓林館 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 (2) 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。また、聞き手に伝わるように音読できる。 (3) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたり、簡潔に書いたりすることができる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | Lesson 1 A Swedish Girl's Discoveries in Japan | ・海外の視点から見た日本の不思議について理解し、描かれている漫画の内容について会話する。 | | | | | | | |
| | Lesson 2 A Message from Emperor Penguins | ・コウテイペンギンの生態について理解する。また、関心のある動物について文章に書いて伝える。 | | | | | | | |
| 2 学期 | Lesson 3 Tokyo's Seven-minute Miracle | ・新幹線の清掃員の仕事の様子とその仕事に対する考えを理解し、日本の誇れることについて、情報や自分の考えを論理性に注意して、詳しく話して伝える。 | | | | | | | |
| | Lesson 4 Sends for the Future | ・タネの保全のための活動と取り組みについて理解する。また、自分の関心のあることや熱中していることについて意見交換する。 | | | | | | | |
| 3 学期 | Lesson 5 Gaudi and His Messenger | ・ガウディとサグラダ・ファミリアの歴史について理解する。また、自分が感銘を受けた歴史的建造物について会話する。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 情報や考えなどについて、英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 情報や考えなどについて、英語で簡潔に書くことができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧小テスト ㊨ワーク点検 | | ㊦定期考査 ㊧パフォーマンステスト ㊨課題内容 | | | ㊦パフォーマンステスト ㊧課題の取組状況 ㊨ペアワークなどの参加状況 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| | | | | | | | | | | |
|---------|--|---|--|----|---|---|-----|-----|---------|-----|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 1 | 教科 | 外国語 | 科目 | 論理・表現 I | |
| 学習教材 | ・教科書「APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I」開隆堂 「Workbook」開隆堂 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、</p> <p>(1) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。</p> <p>(2) 聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。</p> <p>(3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。</p> | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | Lesson 1 My Hero | ・ 現在と過去を表す文の理解を基に、あこがれの人について、わかりやすく的確に紹介する。 | | | | | | | | |
| | Lesson 2 Weather Forecast for Tomorrow | ・ 未来を表す文の理解を基に、外国からきたお客さんと過ごす週末の予定を伝える。 | | | | | | | | |
| 2 学期 | Lesson 3 Tips on Visiting a Japanese Temple | ・ 助動詞を使った文の理解を基に、富士登山の際の注意事項について発表する。 | | | | | | | | |
| | Lesson 4 The Key to Learn Kanji | ・ 完了形を使った文の理解を基に、これまで経験したことについて友人に尋ねたり、紹介したりする。 | | | | | | | | |
| | Lesson 5 Home-Made Bread | ・ 受動態を使った文の理解を基に、これまで経験したことについて友人に尋ねたり、紹介したりする。 | | | | | | | | |
| 3 学期 | Lesson 6 Guinness World Records | ・ 比較級、最上級を使った文の理解を基に、好きな日本の食べ物について紹介する。 | | | | | | | | |
| | Lesson 7 Japanese Bentos Are Cool! | ・ 同等比較、倍数比較を使った文の理解を基に、食品ロスを減らす方法について、グラフの情報と合わせて発表する。 | | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 文の構造や文法事項を理解することができる。 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 相手の話す内容や質問に対して、適切な相槌をうちながら、きちんと耳を傾けている。 自分の考えを積極的に伝えようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物 | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 定期考査 ㊩ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト | | | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況 | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|---|---|---|-----|---------|---------|-----|----|--------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科・グローバルマネジメント | 単位 | 2 | 教科 | 外国語 | 科目 | 英語基礎演習 |
| 学習教材 | | Quest Revised Edition stage2 (エスト出版) | | | | | | | |
| 学習目標 | | (1) 長文を読み、文章の全体像を捉えることができる。 (2) 基本的な文法事項を使い、簡単な英文を作ることができる。 (3) 会話や説明文を聞き、話の要点を捉えることができる。 | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | Lesson1 Lesson2 Lesson3 Lesson4 Lesson5 | <ul style="list-style-type: none"> ・文の種類 — 選択疑問、否定命令文 ・文型1 — SVO、SV00 ・文型2 — SVOC ・時制1 — 現在形、過去進行形 ・時制2 — 現在完了、過去完了 | | | | | | | |
| 2 学期 | Lesson6 Lesson7 Lesson8 Lesson9 Lesson10 | <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞1 — 禁止、不必要 ・助動詞2 — 助動詞+完了形 ・受動態 — 受動態の否定文、疑問文 ・不定詞1 — 不定詞の副詞的用法 ・不定詞2 — 形式主語、SVO to do | | | | | | | |
| 3 学期 | Lesson11 Lesson12 Lesson13 Lesson14 Lesson15 | <ul style="list-style-type: none"> ・動名詞と分詞 — 後置修飾、of doing ・関係詞 — 関係代名詞の省略 ・比較 — 比較級、as～as ・数量表現 — a lot of, few ・前置詞、接続詞 — as, both A and B | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標 [「B」(おおむね満足できる)の規 準] | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2 期中 | 2期 末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・文の構造や内容を理解することができる。 ・情報や考え、気持ちなどを適切に伝えることができる技能を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・ 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の概要や要点を捉えることができる。 ・基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して書いたり、話したりして伝えることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習 に取り組む態 度 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の概要や要点を捉えようとしている。 ・クラスメイトにわかるように、題材についての情報や考え、気持ちなどを伝えようとしている。 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 評価 方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 定期考査 ㊧ 小テスト ㊨ 提出物 | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 定期考査 ㊧ 授業プリント ㊨ パフォーマンステスト | <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 授業での発表 ㊧ 相互評価 ㊨ 提出物 ㊩ ペアワークなどの参加状況 | | | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 2 | 教科 | 家庭 | 科目 | 家庭総合 | |
|-------------|---|---|--|----|---|---|-----|-----|------|-----|
| 学習教材 | ・教科書「新家庭総合」実教出版 ・「新家庭総合 学習ノート」実教出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けることができる。【知識・技能】 (2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養うことができる。【思考・判断・表現】 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことができる。【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学 期 | 「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」 第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章 自分らしい生き方と家族 第3章 子どもとかわる | ・人の一生における青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力、意思決定の重要性について理解を深め、共に家庭を築くことの意義や重要性を考える。 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、それらを有効に活用して生活の中の様々なリスクへの対応や回避のためにも役立つことを理解する。 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながっていることを理解し、子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について学ぶ。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいの中で発達していくことを学ぶとともに、子どもを生き、育てる意義について理解する。 ・子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。 ・自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する。 | | | | | | | | |
| | 「B 衣食住の生活の科学と文化」 第6章 食生活をつくる | ・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化等、食と人との関わりについて理解する。またライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解する。 | | | | | | | | |
| | 「C 持続可能な消費生活・環境」 第9章 消費行動を考える 第10章 経済的に自立する | ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできるようになる。 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深める。また消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。 | | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技能 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | 生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する等、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | | |
| | ㊦定期考査 ㊧ホームプロジェクト・発表 ㊨学習ノート点検 ㊩実習 | | ㊦定期考査 ㊧ホームプロジェクト・発表 ㊨ペアワーク ㊩学習ノート点検 | | | ㊦振り返りシート ㊧ホームプロジェクト・発表 ㊨ループリックによる相互評価 ㊩学習ノート点検 | | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科・情報マネジメント | 単位 | 2 | 教科 | 商業 | 科目 | マーケティング |
|---------|---|--|----------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|----|---------|
| 学習教材 | ・『マーケティング』(190 東法 商業 719) ・『マーケティング 準拠ワーク』(東京法令出版) ・全商商業経済検定 模擬問題集 マーケティング | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 第1章「現代市場とマーケティング」 第2章「消費者行動」 第3章「市場調査」 | ・日本における生産・流通・消費の動向、人口動態などマーケティングを取り巻く市場環境の変化について扱い、様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について、企業におけるマーケティングの具体的な事例と関連付けて学ぶ。 ・消費者心理、消費者の意思決定の過程と購買行動及び消費者の行動に影響を及ぼす要因について扱い、購入後の満足やロイヤリティの形成など企業活動に影響を及ぼす購入後の消費者行動について学ぶ。 ・マーケティングにおける様々な市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順、既存の資料による調査と実態調査の違い、観察やインタビューなど定性調査と定量調査の違いと手順及び調査サンプルの抽出法について扱い、市場調査を行う課題を設定し、情報の収集を行う学習活動について学ぶ。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 第4章「製品政策」 第5章「価格政策」 | ・統計的手法を用いた情報の分析方法について扱い、市場調査で得られた情報などに基づいて仮説を立てるとともに、仮説を検証して報告書を作成し、プレゼンテーションを行う学習活動について学ぶ。 ・価格政策の目的と重要性及び価格に関する法的な規制と法規に基づいて価格政策を立案して実施することの重要性について学ぶ。 | | | | | | | |
| 3 学期 | 第6章「チャネル政策」 | ・チャネル政策の目的と重要性及びチャネル政策を立案し実施する際に販売データを活用することの重要性について学ぶ。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標[「B」(おおむね満足できる)の規準] | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | | |
| ① | 知識・技術 | ・企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | ・マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組むことができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科・グローバルマネジメント | 単位 | 2 | 教科 | 商業 | 科目 | ビジネス・マネジメント |
|---------|---|--|----------------------------|---------|---------|-------------------------------------|---------|----|-------------|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・実教出版「ビジネス・マネジメント」 ・実教出版「ビジネス・マネジメント準拠問題集」 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる。</p> <p>(2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ、協働的に取り組むことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 1章 ビジネスの創造 2章 ビジネスの組織化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。 ・マネジメントの意義と課題について自らの考えをもち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学ぶ。 ・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 3章 経営資源のマネジメント 4章 ビジネスの変革 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解する。 | | | | | | | |
| 3 学期 | 5章 ビジネスと社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて理解する。 ・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | 評価のフィードバック | | | | | | |
| | | | 1 期中 | 1 期末 | 2 期中 | 2 期末 | 学 年末 | | |
| ① | 知識・技術 | ・ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ② | 思考・判断・表現 | ・ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 評価方法 | ① | | ② | | | ③ | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 ⑩検定試験 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 4 | 教科 | 商業 | 科目 | 財務会計Ⅰ | |
|---------|---|---|-----|--|------------|-----|---------------------------------|-----|-------|--|
| 学習教材 | ・教科書「新財務会計Ⅰ」実教出版 ・「最新段階式 簿記検定問題集 改訂版 全商1級 会計」実教出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) 財務諸表の作成に関する知識や技術を習得し、財務会計の意義や制度について理解できる。 (2) 財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | ○第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 ○第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産 PART1 当座資産 第6章 流動資産 PART2 棚卸資産・その 他流動資産 第7章 固定資産 PART1 有形固定資産 第8章 固定資産 PART2 無形固定資産 第9章 固定資産 PART3 投資その他の 資産 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・企業会計の意味と役割について学ぶ。 ・企業会計原則及び企業会計基準の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解する。 ・貸借対照表の役割や区分表示及び様式など、その概略について理解する。 ・資産の意味や分類について学ぶ。 ・当座資産、棚卸資産の意味と種類について学ぶ。 ・有形固定資産の意味と種類について学ぶ。 ・無形固定資産の意味と種類について学ぶ。 ・投資その他の資産の意味と種類について学ぶ。 ・負債の意味や分類について学ぶ。 ・流動負債の意味と種類について学ぶ。 ・固定負債の意味と種類について学ぶ。 | | | | | | |
| 2 学期 | 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権 第19章 貸借対照表の作成 ○第3編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 損益計算の意味と基準 第22章 売上高 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 第24章 営業外収益・営業外費用 第25章 特別利益・特別損失 第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・純資産の意味や分類について学ぶ。 ・資本金について理解する。 ・資本剰余金について理解する。 ・利益剰余金について理解する。 ・自己株式について学ぶ。 ・新株予約権について学ぶ。 ・貸借対照表の作成方法を学ぶ。 ・損益計算書の役割や区分表示及び様式など、その概略について理解する。 ・売上高を計上する基準について理解し、記帳や計算の仕方を学ぶ。 ・売上原価の意味と販売費及び一般管理費の種類について学ぶ。 ・営業外収益・営業外費用の意味や種類について学ぶ。 ・特別利益・特別損失の意味や種類について学ぶ。 ・損益計算書の作成方法を学ぶ。 ・株主資本等変動計算書の意味やその作成方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 3 学期 | ○第4編 その他の会計処理 第28章 役務収益・役務原価 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計 ○第5編 財務諸表の活用 第31章 財務諸表のディスクロージャー 第32章 財務諸表分析 第33章 連結財務諸表のあらまし 第34章 連結財務諸表の作成 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・役務収益・役務原価の意味を理解する ・外貨建取引の仕組みを理解する ・税効果会計のしくみや計算方法を学ぶ。 ・企業と利害関係者間での財務諸表のディスクロージャーの必要性を学ぶ。 ・財務諸表分析の意味や計算方法について学ぶ。 ・連結財務諸表の意味や目的を理解し、連結財務諸表の概略について学ぶ。 ・連結財務諸表の作成手続きについて学ぶ。 | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | 評価のフィードバック | | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | |
| ① | 知識・技術 | 財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、的確に処理することができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ② | 思考・判断・表現 | 様々な処理方法や財務諸表の作成方法について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫することができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 企業会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むことができる | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 評価方法 | ① | | | ② | | | ③ | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | ⑦定期考査、検定試験 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | |

令和8年(2026年)度 年間授業計画表

| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 3 | 教科 | 商業 | 科目 | 原価計算 | |
|---------|--|--|----------------------------|--|---------------------------------|-----|-----|-----|------|--|
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「新原価計算」実教出版 ・「最新段階式 簿記検定問題集 改訂版 全商1級 原価計算」実教出版 | | | | | | | | | |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 | | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | | |
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ○第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業における簿記- ○第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記は製造業に適用されるものであることを学ぶ。 ・工業簿記と原価計算の関係を学ぶ。・原価の意味(製造原価・総原価)を学ぶ。 ・原価計算の四つの目的について理解する。・工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を学ぶ。・工業簿記の一連の記帳手続を学習させることにより、全体的な構造を学ぶ。・材料費の分類とその内容を学ぶ。・材料費の仕入れと記帳方法、元帳への転記を学ぶ。・棚卸減耗の意味とその処理方法を学ぶ。・材料の消費と記帳方法、原価元帳への記入方法について理解する。・材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解する。・予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳方法を学ぶ。・労務費の分類とその内容を学ぶ。・賃金支払高と賃金消費高の計算と記帳方法を学ぶ。・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を学ぶ。・賃金以外の労務費の種類、その計算と記帳方法を学ぶ。・経費の意味とその分類を学ぶ。・経費の消費高の計算と記帳方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ○第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算のしくみを学ぶ。・原価元帳と製造勘定の関係を学ぶ。・製造間接費の配賦についての概要を学ぶ。・実際配賦率による配賦の欠点を説明し、予定配賦率による配賦を学ぶ。・製造間接費の差異分析を学ぶ。・仕損品・作業くずの処理を学ぶ。 ・部門別個別原価計算の必要性を学ぶ。・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。・総合原価計算の種類を学ぶ。・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れを学ぶ。・月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を学ぶ。・単純総合原価計算表の作成と記帳法に習熟させる。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解させ、等級別総合原価計算表の作成に習熟させる。 ・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解させ、組別総合原価計算表の作成に習熟させる。 ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解する。・工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを学ぶ。・工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を学ぶ。・半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解する。・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を学ぶ。・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解する。 | | | | | | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ○第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引 ○第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2) ○第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を学ぶ。・販売費及び一般管理費の記帳方法を学ぶ。・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。 ・工場会計の独立と、その記帳方法について理解する。・標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。・完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を学ぶ。・原価差異の計算とその分析方法を学ぶ。・標準原価計算の記帳方法を学ぶ。・標準原価計算による損益計算書の作成方法を学ぶ。・直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。・直接原価計算表の意義と特色を学ぶ。・直接原価計算による損益計算書の組み立て方を学ぶ。・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を学ぶ。・高低点法を用いた原価予測の方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標【「B」(おおむね満足できる)の規準] | | | 評価のフィードバック | | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 | |
| ① | 知識・技術 | 原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ② | 思考・判断・表現 | 原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応できる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 評価方法 | ① | | ② | | ③ | | | | | |
| | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | ⑦定期考査、検定試験 ⑧副教材 ⑨グループワーク等 | | | | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|--|---|-----|-------------------------------------|------------|-----|-------------------------------------|-----|----------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 4 | 教科 | 商業 | 科目 | ソフトウェア活用 |
| 学習教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 商業736「ソフトウェア活用」 ・副教材「全商情報処理検定1級ビジネス情報模擬問題集」 | | | | | | | | |
| 学習目標 | <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p> | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学 期 | 1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。 ・ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身に付ける。 ・Society5.0が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用例と目的を理解する。 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 ・情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。 | | | | | | | |
| | 2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護 | | | | | | | | |
| | 3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 3節 手続きの自動化 | | | | | | | | |
| 2 学 期 | 4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造 5節 SQLの操作 | <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 ・データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 ・フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 ・データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。 ・グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ・販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 ・給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 | | | | | | | |
| | 5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用 | | | | | | | | |
| | 6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発・演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 | | | | | | | |
| 評 価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1期中 | 1期末 | 2期中 | 2期末 | 学年末 |
| ① | 知識・技術 | ・企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 | | | | ○ | | ○ | ○ |
| 評価方法 | ① | | | ② | | | ③ | | |
| | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定試験 ⑩グループワーク等 | | |

| 令和8年(2026年)度 年間授業計画表 | | | | | | | | | |
|----------------------|--|--|-------------------------|----|-------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 学年 | 2 | 科・系 | 商業科 | 単位 | 1 | 教科 | 商業 | 科目 | ビジネス実務スキル |
| 学習教材 | ・実教出版「全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(1級)」 | | | | | | | | |
| 学習目標 | (1) Wordを使って、ワープロ操作の応用的な技術を習得する。 (2) 文字や画像などを、適切に正しく入力・作成できる。 | | | | | | | | |
| 単元と学習内容 | | | | | | | | | |
| 1 学期 | 文字入力 Wordの基礎的な使用方法 文書作成 通信文書の作成 検定試験対策 | 文字入力ソフトを使い、文字入力の技能を向上させる。 様々な機能を使い、指示された通りの通信文書を作成できるようにする。 検定模擬問題を学習し、技量の向上を目指し定着を図る。 | | | | | | | |
| 2 学期 | 文字入力の向上 速度練習 文書作成の向上 検定試験対策 検定練習 速度・文書・筆記すべての対策 | 速く正確な文字入力の技能を高め、10分間で、700字以上の入力を目指す。 全商ビジネス文書実務検定1級の文書作成を時間内に正確に作成できるようにする。 全商ビジネス文書実務検定1級に合格できるようにする。 | | | | | | | |
| 3 学期 | 総合演習 | 身に付けた知識・技術を他の商業科目の学習に活かす。 | | | | | | | |
| 評価 | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | 到達度目標〔「B」(おおむね満足できる)の規準〕 | | | 評価のフィードバック | | | | |
| | | | | | 1 期 中 | 1 期 末 | 2 期 中 | 2 期 末 | 学 年 末 |
| ① | 知識・技術 | ・企業活動におけるビジネス文書の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ② | 思考・判断・表現 | ・企業活動におけるビジネス文書の活用に関する課題を発見し、見やすく解りやすい文書の作成・表現方法を身に付ける。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ③ | 主体的に学習に取り組む態度 | ・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるビジネス文書の活用主体的かつ協働的に取り組むことができる。 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 評価方法 | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定の成績 | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定の成績 | | | ⑦定期考査 ⑧副教材 ⑨検定の成績 | | | |

